

—朝日新聞『天声人語ノート』を活用した日本語作文授業—  
A Writing Course That Makes Use of the Asahi Newspaper “Tensei Jingo”.

赤塚康子/高井美和  
香港中文大学專業進修学院

### 要旨

香港政府による教育制度改革により、2011年から大学入試共通試験が行われ、香港でも選択科目として日本語の試験が実施されており、当地の大学への進学でも「話す・読む・書く」力が重視されて来ているという。このコースでは、時事問題を扱い、必要な事柄や言葉を自分で調べたり、クラスで討論しながら、最後に自分の考えを小論文にまとめる練習を繰り返し行った。さらに、朝日新聞『天声人語ノート』の書き写しは、このように書けばいいというお手本としてではなく、ある意見に触れ、どう思うかを考えたり、教師から与えられる語彙リストや課題ではなく、わからなかったり気になる言葉や事柄を自ら調べて学ぶ機会づくりとして取り入れた。書き写しをすると、1つ1つの言葉や表現に目が留まる時間が長くなる。設問があらかじめ設定されている、教師が与える速読練習や、精読練習とはまた違った、個人の読みとそれに続く学びの行為を自分の意思で選択していくことを多少なりとも強調して、卒業前の最終学年を送ってもらおうと考えた。本稿では、授業の概要を述べ、学生からのアンケートやインタビューをもとに、この実践の良かった点と改善点を考察して述べてたい。

### キーワード：

天声人語ノート、作文、時事問題、ディスカッション、書き写し

赤塚康子/高井美和  
香港中文大学專業進修学院

## 1. はじめに

歌謡曲やアニメ、ドラマなどの日本のポップ・カルチャーを見て、日本語をどんどん吸収していく学生は多い。その一方で、日本のニュース、時事問題などの内容になると、1人で積極的に見て学ぶのは難しいようだ。そこで、クラスというコミュニティを利用して、自分の意見をまとめるために皆で話し合ったり、さらに必要な事柄や言葉を自分で調べながら、社会で起きていることに目を向けられるようなコースを考えた。これは、全日制の日本語課程の3年生の科目で、学生たちは、卒業後、日本や香港での進学、または就職を目指している。

国際交流基金の日本語教育関連ホームページでもわかるように、香港では、「香港政府による教育制度改革に伴って、2011年から大学入試共通試験 Hong Kong Diploma of Secondary Education が導入され、選択科目として日本語の試験も2011年から実施されている」（宇田川、2013）。さらに、それは英国の Cambridge International Examinations の Advanced Subsidiary (AS) level Japanese の試験を採用していて、スピーキング、エッセイ、読むこと・書くことの3つで、言語の運用力が評価の中心となっていることがわかる（シラバス・ガイドライン一覧）。

このように、大学への進学でも、「話す・読む・書く」力が重視されて来ている。また、論理的に自分の考えをまとめて話したり、書く力は、就職してからも、大切なことである。科学技術の発展とともに、情報が氾濫し、変化の著しい現代社会では、頻繁に決断を迫られ、その根拠を明確に表す能力は不可欠である。

そこで、朝日新聞『天声人語ノート』の書き写しは、このように書けばいいというお手本としてではなく、ある意見に触れ、どう思うかを考えたり、教師から与えられる語彙リストや課題ではなく、わからなかったり気になる言葉や事柄を自ら調べて学ぶ機会づくりとして取り入れた。書き写しをすると、1つ1つの言葉や表現に目が留まる時間が長くなる。文章を読んで自分に必要な情報を取ったり、読んで大意や要旨を捉える速読練習や、設問に答えながら作者の意図をしっかりと掴んでいく精読練習とはまた違った、個人の読みとそれに続く学びの行為を自分の意思で選択していくことを多少なりとも強調して、卒業前の最終学年を送ってもらおうと考えた。

秋田(2001)は、幼児期以後の読む能力の発達と生涯学習の視点から、学校教育と日常生活での「読み」の目的や、一連の行為の違いについて指摘している。学校では読解能力の向上や、学習内容の理解が「読み」の目的で、与えられたものを読み、内容が理解できたかを評価されて終わる。一方、日常生活での「読み」の目的は、何かを達成する

ためであり、自分が選んだものを読み、得た情報を活用して意思決定し、行動につなげるものである。

『天声人語』は、教師が指定する読み物ではあるが、ある主張を知り、自分の考えを小論文にまとめるまでのきっかけや材料の1つとして扱った。これを読んで、さらに、自分は賛成か反対か、どうしたらいいかを決定するために、知りたい事柄やわからない言葉を自分で調べてもらった。

使用したコラムは、科学、政治、経済、メディア、教育などの多様な分野からで、コース開始前の3か月以内のもの<sup>1</sup>を選んだ。インターネットやスマートフォンが普及した現代では、視写するような作業はほとんどしなくなったためか、天声人語ノートの書き写しに対する反応は様々であった。しかし、コース終了後のアンケートでは、「自分の意見を論理的にまとめて書く力」をはじめ、「語彙力」「わからないことを調べる」などの事柄で、多くの学生が能力が上がったと実感していた。これは、書き写しだけの効果ではなく「賛成か反対か」「どちらの立場を取るか」という二者択一の問い掛けから始めて、背景レクチャー、天声人語ノート、発表や討論を経て、最後に自分の考えを小論文にまとめるという一連の活動をコース中に繰り返し行ったことによるだろう。本稿では、実践の様子、学生からのアンケートやインタビューをもとにした振り返りを述べたい。

## 2. 授業概要

### 2.1 コース紹介 (2013年度)

実施場所：香港中文大学專業進修学院

コース名：Higher Diploma in Contemporary Japanese Essay 2

コース時間数：30時間 (2時間/週)

学生数：Aクラス：18人 Bクラス：25人

日本語学習歴：約1000時間で以下の作文関連科目を終了している

- ・エッセイ1：身の周りや香港のことを簡単に紹介  
(400字～600字程度のエッセイ)
- ・新聞日本語：日本留学試験の作文問題ができることを目標にした作文練習  
(400～500字程度)

卒業後の進路：日本への留学、香港での進学、就職

---

<sup>1</sup> 使用したコラムと掲載年月日は表2参照。

表 1:成績評価

1	天声人語ノートの課題	20%
2	小論文 7.5×4回	30%
3	発表1 天声人語ノート 発表2 小論文のテーマ 参加度・態度	15%
4	語彙クイズ 2×5回	10%
5	期末試験	25%
	計	100%

## 2.2 コースの目標

このコースの目標は、社会で起こっている出来事や話題になっていることについてさらに理解を深め、30分で400～500字程度で論理的に自分の考えをまとめて書く日本留学試験の小論文が書けることである。学生にわかりやすいように具体的な到達目標を示した。さらに、卒業後も自分にとって必要な日本語や知識を得ながら、意思決定し、生活・行動していける力の育成も念頭に置いている。そのため、教師のレクチャー以外に、学習者自身にも情報を収集して発表したり、他の学習者とディスカッションができる場を設けた。そして、ディスカッションを通して、他の人の意見やその根拠に耳を傾け、様々な角度から物事を客観的に捉えられるようにした。批判的思考力は、楠見（2012）により、以下のようにまとめられている。

- ・ 証拠に基づく論理的で偏りのない思考 - 多面的, 客観的にとらえる
- ・ 内省的思考 (リフレクション) - 「相手を非難する」よりも, 自分の思考を意識的に吟味する, メタ認知
- ・ 問題解決や判断を支えるジェネリック (汎用的) スキル- 目標志向的
  - 学業, 市民生活, 仕事の実践を支える・問い, 情報収集, 推論, 行動決定, 問題解決

以上のように、批判的思考の育成は、文章を論理的に組み立てたり、自らの考えを明確化させる能力を養うだけでなく、今後、学習者がぶつかるであろう様々な問題に対処する能力も養うためでもある。

「填鴨式教育 (詰め込み教育の意)」であった香港では 2007 年に香港特別行政区政府教育局による教育改革が行われ、「九種共通能力」と「四個關鍵項目」という教育方針が改められた。この、「九種共通能力」の一つに「判断的思考能力」が挙げられている。また、「科学教・育課程文件」で以下のように述べられている。

“The school curriculum is designed to help all students to become lifelong learners so that they can cope with the rapid increase of information in an ever-changing world. A lifelong learner must possess the ability to think independently, which relies on his/her ability to think critically. Critical thinking is one of the nine generic skills in the school curriculum in Hong Kong. It applies to all Key Learning Areas. With a flexible curriculum framework, teachers can develop students’ critical thinking skills through learning and teaching strategies.”

(学校のカリキュラムは、生徒が生涯学習者として、変化し続ける世界で急速に増える情報に対応できるようにデザインされている。生涯学習者は批判的に思考できる力を持ち、それを自主的に使用できる。批判的思考力は、香港の学校の9つの包括的カリキュラムのうちの1つである。これはすべての重要学習項目に繋がるものである。柔軟なカリキュラムの枠のもと、教師は生徒の批判的思考力を、学習と教育の方策を通じて、伸ばすことが可能である。)

ここで述べられているように批判的思考力を伸ばすために、『天声人語』と専用学習ノートを使用し、「読む・話す・書く」活動を行った。

市川(2001)は、国語教育の中でどのような教材、活動が可能か提示するため、賛成・反対の両意見が出ている新聞の投書欄を例としてあげ、それぞれの立場の論点をまとめて、批判的に検討していく方法を示している。教科書にある教材は、これまでは『模範的なもの』として取り扱われているため、新聞の投書などのように批判の対象となり得るもの、しやすいものを挙げている。

そこで、学習用のノートが出ていて、続ければ、そのまま学習の記録として残せる『天声人語ノート』を使用して、自分の意見をまとめて述べるための足掛かりにした。

### 2.3 なぜ『天声人語ノート』を使用したか

『天声人語』は、朝日新聞の朝刊に100年以上も連載中のコラムで最近のニュース、話題を題材にして論説委員が執筆し、社説とは違う角度からの分析を加えている。大学などの入試や就職面接で取り上げられることもある。

『天声人語ノート』は、美文字版や脳トレ版など、伸ばしたい能力によってさまざまなスタイルのノートが出ていますが、このコースでは学習用を使用した。学習用は、天声

人語を書き写して感想を書いたり、自分がわからない語彙の意味を調べたり、そのコラムに合うタイトルを考えて記入するようになっている。

投書を教材化することも可能であろうが、『天声人語』は進学・就職のための教養づくりとしてもよく引き合いに出され、かつ、専用の学習ノートがあつて使い勝手もよさそうなことから、『天声人語』と『天声人語ノート』を使用した。

使用したコラムと、小論文のトピックは以下の通りである。先にも述べたが、天声人語は文章のお手本としてではなく、このような意見や事柄があるが、どう思うかという導入に使用したり、自習として、筆者の考えに線を引いたり、わからない言葉を調べて書いたり、読んだ感想をまとめる、自分で考えたタイトルをコラムにつけるなどの、独自の学習ノートを作ってもらうために使用した。ただし、前年度の授業の反省から、毎回20個程度、日本語能力試験のおもにN2レベルの語彙をピックアップして学生に提示し、覚えてもらい、語彙クイズで確認した。これは卒業までにN2を取るというこの日本語課程の目標でもあり、かつ、特に語彙力・文法力が弱い学生に、まず手をつけるといいものを示してそこから学習を進めてもらうためでもある。

表2：使用した天声人語のコラム・小論文とトピック

	天声人語	分野	小論文トピック
1	【カタカナ語への憂】 2013. 6. 28 <sup>2</sup>	日本事情・ メディア	NHKを訴えることが妥当か
2	【広がるネット依存】 2013. 8. 3	情報産業社会・ コミュニケーション	人と人が直接会ってコミュニケーションする方が、手紙や電子メールより優れているという意見に賛成か
3	【シェアするという文化】 2013. 8. 2	日本事情・ 暮らし・生き方	自分は利用したいか、住みたいか
4	【人と話さない高齢男性】 2013. 7. 26	少子高齢化・ 科学技術・ コミュニケーション	ロボットの共生 ロボットと同じ家で暮らしたいか
5	【「ゲン」が読めない？】 2013. 8. 18	教育・ メディア	描写の激しい著作物を未成年者に対して販売することを禁止すべきか

<sup>2</sup> このトピックのみ2012年6月28日のものを使用。

6	【ネット選挙、道半ば】 2013. 7. 17	情報産業社会・現代社会・日本事情	香港でもネット選挙をすることに賛成か
7	【財政再建に裏道なし】 2013. 9. 2	現代社会・日本事情・暮らし	香港に消費税を導入すべきかどうか
8	【水に流せぬ原発事故】 2013. 8. 22	科学技術・環境問題	原発を廃止すべきか
9	【遅れた正義】 2013. 10. 19	日本事情 刑法	国際的に死刑制度廃止の方向に向かっている現在、死刑制度を存置している国は廃止すべきであるか

授業では、『天声人語』で取り上げられた最近の時事問題から小論文のトピックを作り、二者択一の問いかけから始めた。その後、学生の興味を引くように更にレクチャーで映像や写真などを盛り込みながら背景の紹介を行った。また、賛成か反対か自分の立場を選択してもらい、教師によるレクチャーの前後、さらにクラスメートの意見を聞いたり、ディスカッションの後でどう自分の考えが変化したか、それはどうしてかを尋ねた。

## 2.4 授業の流れ

授業の流れが捉えやすいように、以下の表にまとめた。

**表 3：授業のステップ**

STEP1	「レクチャー/『天声人語ノート』の書き写し（課題）」 今、日本社会で問題や話題になっていること、その背景や、それに対してどんな意見があるかなどを知る。
STEP2	「調べて発表/発表を聞いて意見交換」 自分はどう思うか、香港だったらどうか、意見とその根拠が述べられるようにする。発表を聞いた人はそれに対して質問したり、自分の考えを述べたりする。
STEP3	「論理的にまとめる」 自分の意見を論理的に表現できるように、小論文を書いて練習する。授業中、30分で400字～500字以内にまとめる。

### 3. 分析

#### 3.1 分析方法

教師が意図した各学習活動の意義や目標を理解し学習が行われていたか、また学生が成長を実感できているかなどを知るために、コース終了後に、アンケートとインタビュー調査を行った。アンケートは43名中35名(20~22歳)から回答を得た。アンケートの後、さらに詳しく話を聞くために、各クラスから6名ずつ計12名にFacebookのチャット機能を使ってインタビューも行った。さまざまな日本語能力の学生から意見を集めるため、成績の上中下からできるだけ等しい人数になるようにし、アンケート時に、特記に何か記入しているような学生は、そこをさらに聞くために、意図的に選んだ。

#### 3.2 分析

##### 3.2.1 『天声人語ノート』の書き写しについて

活動全般については「楽しかった・よかった・役に立つと思う」という意見が多かったが、『天声人語ノート』の書き写しや発表に関しては少し評価が下がった。以下がアンケートの結果と、インタビューで得た学生からの感想である。

表4: 「楽しかった/よかった・役に立つと思ったことは何ですか」(アンケート)

	5	4	3	2	1
『天声人語ノート』書き写し	7	16	8	3	1
『天声人語ノート』についてほかの学生の意見を聞く	7	18	10	0	0
背景のレクチャー	16	17	2	0	0
社会問題について、ほかの学生の意見を聞いたり、ディスカッションする	18	14	2	1	0
社会で起きていることについて小論文を書く	12	19	3	1	0

5 とてもそう思う
4 そう思う
3 どちらでもない
2 そう思わない
1 全くそう思わない

まず、反省されるのが、アンケートのタイトルに「楽しかった」「よかった」「役に立つ」という違う項目を3つ入れたことである。学生が肯定的に捉えていたか知れたかったのだが、これでは「楽しかったが役に立っていない」のか「楽しくなかったが役に

立っている」のかなど、はっきりした結果が得られない。そこで、ここでは、アンケートのコメントとインタビューを中心にしていきたい。

**表5：「『天声人語ノート』はどうでしたか」（インタビュー）**

- ・少し大変ですが、書くことは日本語の表現や語彙などの勉強にいいと思います。覚えやすくなり印象に残るからです。
- ・いいと思う。書き写しながらちゃんと新聞の内容を読んでいるし、それに字の練習もできます。書き写すときわからない言葉があつてすぐ辞書で調べることでいろいろの日本語の能力も上がりました。
- ・正直、最初は大変であり意味がないと思いましたが、書けば書くほど語彙や知識も増やすことができ結果的にはよかったと思います。
- ・正直に言うと、毎回新聞の書き写すはおもしろくないと思います。
- ・COPYはつまらなかった。読んだあと自分のコメントを書くのは楽しかった。

インタビューでは、予想外に『天声人語』の書き写しは、比較的、作文が得意な学生には不評で、書く力が弱い学生に好評であったことだ。前年度のインタビューでも「N1（日本語能力試験）を持っているから天声人語の語彙を勉強する気がなくなりました」と答えている学生がいる。また、今回のインタビューでも、「書きうつすだけはおもしろくないが、自分のコメントを書くのはおもしろかった。」そして、「（学校では）社会問題について書くから、（家では）書き写しではなくて、そのトピックに関連する作文がいい。自由に書いたらおもしろいだろうから」など、特に読み書きに自信のある学生にとっては、おもしろくない作業となったようだ。これは、単語や文型がわかっているから、書き写して「覚える」必要性が感じられない、つまり、書き写しの意義は「単語や表現を覚えるため」と捉えられているようで、教師の考える活動の意義とのずれも見られた。逆に作文を書く力が弱い学生は、自分の学習の成果が、たまっていくページを見て確認できるので、文法や語彙など、わからないことが多くて負担は多いはずだが、勉強しているという実感に繋がっているようだ。「学期の前半は『天声人語』は書かなくてもいいと思いましたが、しかし、新聞を書く時、言葉を調べて、私はもっと新聞の意味がわかります。」、「『天声人語』を書いて、多くの言葉を勉強しました。ですから、先生の授業は実用的。つまらないことはないと思います。」、「『天声人語』を書いたら、作文のフォーマル（フォーマット）がわかりました。」など、書き写しに対して、肯定的なコメントがあった。

### 3.2.2 授業でどんな能力が上がったと思うか

表6: 「どんな能力が上がったと思いますか」 (アンケート)

	5	4	3	2	1
語彙力 (単語や表現)	13	17	5	0	0
日本社会の出来事や動向などの背景知識を得る	13	20	1	1	0
わからない言葉やある事柄に関してさらに情報やデータを調べる力	6	13	11	0	0
社会問題についてほかの学生の意見を聞いたりディスカッションする	10	12	12	1	0
自分の意見を論理的にまとめて書く	8	21	6	0	0
選択肢の中から自分の立場を選ぶ際の決断の仕方や判断力	6	20	8	1	0

アンケート結果から、語彙力と日本社会の出来事や動向を知る能力が一番上がったと実感していることがわかった。次に、論理的に書くことと、判断や決断力が上がったと感じている学生が多い。語彙に関しては、前年度のアンケート結果で、語彙能力が上がったと実感している学生が比較的少なかったため、今年度から天声人語ノートの中で、日本語能力検定試験 N1、N2 レベルの語彙を 20 程度、教師が選択し、毎回覚えてもらうように提示した。そして、定期的に語彙の小テストを行って確認したことが実感へと繋がったと考えられる。情報やデータを調べる力とディスカッション能力に関しては、他の項目よりも能力が上がったことが実感できていない。エッセイの授業であったため、このコースでは、ディスカッションの指導は特にしていないこと、また、自律学習を促すための作業や、その一環としての天声人語ノートが活用しきれていないことが考えられる。さらに、授業で、どのような論点の場合はもっと裏付けとなるデータを調べたらいいか、どのような意見は論理的という点では説得力が弱いのかなど、断片的に示すだけでなく、学生たちが慣れるまでは教師が整理してまとめる機会を持つべきだったのではないかと反省する。

表7: 「このコースで上がったと思う能力は何ですか」 (インタビュー)

- ・考え方と書くこと、自分の主張とその理由が言えるようになった。
- ・自分の立場を支えるものをはっきり文に表す能力
- ・新聞の語彙、資料をまとめ、そして、自分の意見を簡潔に書くことです。
- ・自分の意見のみならず、他人の意見を聞くという意識が強まった。
- ・語彙と問題の分析が上がった。

自分の意見を簡潔にまとめる能力が上がったという感想がある反面、次のような意見もあった。

「小論文は練習として宿題にしたらもっといいと思います。もっと時間があればいいと思います。日本語のレベルが低い人は時間の限りでどうやって資料をまとめる能力は訓練できません。レクチャーの当日に1回書いて、次は同じトピックだけどちょっと違う内容でもう一度書く」

「社会問題の単語を勉強するのは大切ですが、作文の構成方をもっと勉強したい」

このように、自分の意見をまとめて日本語で表現するために、教師からのサポートをより必要としている学生もいるので、それらに応えるための学習環境づくりが必要である。

### 3.2.3 学習者自身がその目標を必要と感じているか

当コースは、大学進学や就職を目指す学生たちの全日制の日本語課程の一科目であることを考慮し、このようなコースデザインにしたが、果たして、学習者が教師の意図する目標をどのように捉えているかを知るために、次のような質問をした。

表 8：自分の日本語学習に以下の項目が必要だと思いますか」（アンケート）

	5	4	3	2	1
日本で話題になっていることを理解する	10	20	5	0	0
日本や香港の社会的なことに関して、日本語で簡単に説明したり、意見が言える	13	19	3	0	0
日本や香港の社会的問題や出来事に関して、興味を持つようになる	6	17	11	0	0
わからない語彙や事柄を自分で調べる習慣を身につける	12	15	7	1	0
他の人の話や意見を聞いて、理解を深める	13	15	6	1	0
選択の中から自分の立場を選ぶときの決断の仕方や判断力	12	13	7	3	0

少しばらつきはあるが、教師の意図する目標を必要だと考えている学生が多いようである。しかし、「他の人の話や意見を聞いて、理解を深める」「選択の中から自分の立場を選ぶときの決断の仕方や判断力」では、「どちらでもない」「そう思わない」と答えている学生もいる。

### 3.2.4 コースを受けて（どんな）変化があったか

冒頭に述べたように、歌謡曲やアニメ、ドラマを見ながら日本語を勉強している学生は多いが、新聞やニュース記事などの社会的な話題になると、1人で積極的に見て勉強する学生は少ない。そこで、このコースで日本のニュースを自分で見たり、日本語で時事問題に積極的に触れようとする態度がどのくらい身に付いたかを調べるために、以下の質問をした。

**表9: 「（日本のニュースをもっと見るようになったか）  
コース終了後の変化について教えてください」（アンケート）**

	ほぼ毎日	ときどき見ている	ぜんぜん見ていない	ぜんぜん見ていないがこれから見ようと思う	ぜんぜん見ていないし、これからは見ないと思う
コース前	1	15	19		
コース中	3	30	2		
コース終了後	2	26	0	6	1

コース開始前には、ぜんぜん見ていない学生が19人いたが、それが終了後には7人に減っていることはよかった。コース中にときどき見ていた学生がコース終了後もほとんど続けて見ていることも確認できた。これは、毎回授業で与えらえたトピックについて発表したり、作文を書いたことで、学生がニュースを見る習慣になったようだ。教師側も、少しでも学生に興味をもってもらうため、最近話題になっているトピックを選び、なるべく香港と比較しやすいものにしたたり、難しいと思われがちな時事問題を学生がわかりやすいように絵や表で示したり、映像などを見せて、身近に感じてもらうようにしたことも、このような結果に繋がったのではないだろうか。実際に、インタビューでも以下のような意見が聞かれた。

**表 10: 「(日本のニュースを見ることに関して)  
コース前とコース終了後で変化がありましたか」(インタビュー)**

- ・私は『天声人語』を見るお陰で Yahoo! JAPAN を使うことが多くなり、今毎回 YAHOO JP を使う時、自然にニュースのどこかを見て、だからこそ二ニュースを見る回数が増えています。
- ・コース前、ニュースに興味がありませんし、わかりませんので、見なかったんです。しかし、コース後、興味がちょっとありまして、わかりますので、見るのが増えました。
- ・コース前、日本語の新聞を見るたびに、分からないところがいっぱい、見ることをやめました。コース中、必ず見るので1週間に3-5回でした。コース後は、日本語の新聞を見るのがもう怖がらないと思いますが、見る時間あまりないので、1ヶ月に2、3回見えています。

**表 11: 授業以外の日常生活で、このコースで学んだことが  
役に立っていると感ずることがありますか」(インタビュー)**

- ・ニュースを見るとき、全部信じるではなく、その論点が支えるものがあるかどうかを考えることや、反対ほうの理由はなにかこんなことを考え始めました。
- ・いろいろな社会に関するトピックを紹介していただいて、日本の方との会話も通じました。今後のインタビューの時に聞かれても自信が持って答えられると思います。
- ・日本のサイトや本を見たとき、文法や言葉をみたら、エッセイの授業でべんきょうしたものだと感じました。
- ・たくさん新聞(=ニュース)を勉強して、今も日本の新聞をときどき読んで考えます。言葉をたくさん覚えて日本語をもっとわかります。日本人と話すときは自信を持っています。
- ・批判的思考を学んで生活でいろいろなことに役に立っていると思う。
- ・日常生活にはあまり役にたてませんが、将来仕事で絶対役に立てると思います。

インタビューでは、日本のニュースをもっと見るようになったか直接聞いたのではないが、少なくとも、このコースで社会・時事問題に関する語彙や表現を学び、自分の立場を考え、その根拠を説明する練習を繰り返すことで、これらの話題に気軽に触れることができるようになったり、日本語で自分の意見を述べることに自信がついた学生がいると言えよう。

#### 4. 結論

これまで、アンケートとインタビューのデータを分析し、このコースが学習者にとってどう感じられたか、実際に能力が上がったと実感できているかなどを見てきた。全体としては、概ね好意的に捉えられており、能力が上がったと実感している学習者も多かった。『天声人語ノート』に関しては、コラムの「書き写し」に対して肯定的、否定的と、意見が分かれたものの、「感想」を書いたり、自分が知りたい「語彙」を調べて書くことには好評であった。また、『天声人語ノート』を使用したことにより、コース終了後も日本のニュースを続けて見るようになった学生もいた。しかし、「書き写し」については、本当に必要であるかの再検討、また実施するなら、学習者が楽しく意義があると感じて進められるような工夫が必要である。「5分でどのぐらいきれいで正確に書き写すことができるか」などゲーム感覚で楽しく、しかも効果が目で確認できるような実践や、「好きな部分やいいと思う部分」また、「筆者の意見」だけを書き写す作業をしている日本の小中学校もある。今後もこれらの実践を参考に、対象となる日本語学習者に合った活用方法を検討していきたい。また、批判的思考を促すために、教師がしっかりと指導すべき部分と自分たちで決めて学習を進めてもらう部分を再検討したり、天声人語を、他の新聞社のコラムと読み比べさせ、同じトピックでもいろいろな意図を持って表現していることを認識させるような活動も取り入れていきたい。

実践全般に関しては、作文のクラスではあるが、取り扱ったトピックの背景を簡単に紹介するレクチャーや、学生たちのディスカッションや発表なども取り入れ、総合的な活動をした点はよかったと考える。日本語で文章を書くことに抵抗がある学生もディスカッションや発表などで活躍する場もある。また、賛成か不賛成か、どちらの立場を取るかを問うことから始めたので、日本語の表現力が弱い学生でも、社会・時事問題などとかまえずに気軽に参加できたようだ。さらに、自分の考えを決定するまでの過程で、クラスメートの意見を聞いたり、自分でも発表のために資料を調べたりすることで、違う立場や見解に耳を傾けたり、他人が納得のいく説明をしようと、少しでも客観的に自分を振り返ることができたようだ。

しかし、小論文を書くことや、わからない言葉や事柄を自ら調べていくということに対して、教師のサポートを必要としている学生もおり、教師の指導や支援を強化する必要があることが明らかになった。

#### 5. 終わりに

本稿は、『天声人語ノート』を活用した作文コースの実践報告である。このノートを使うことで、時事問題に触れ、語彙や表現力を自主的に身につけるよう促してきたが、今後は個々の学習者のニーズにあったノートの使用法を考えていかなければならない。

学習者が伸ばしたいと思っている能力を向上させるための支援方法として、『天声人語ノート』とポートフォリオファイルとの併用も可能であろう。

また、新聞やインターネットのメディアを使って情報収集をさせ、クラスというコミュニティを利用して学生全体に主体的になってディスカッションさせてきたが、情報収集に関しては、もう少し、効果的なサポートができたのではないかと反省させられる。

今後は、このような批判的思考力を促すための仕掛けを充実させていきたいと考える。例えば、討論に加え、コラムの読み比べや、新聞の作成など、いろいろな方法を検討していくべきであろう。そして、学習者が卒業してからも、多面的、客観的に物事がとらえ判断できるような指導を今後も考えていかなければならない。

## 参考文献

秋田喜代美（2001）「読みの生涯発達」『文章理解の心理学』10章,152-161

市川伸一（2001）「批判的に読み、自己への主張へとつなげる国語学習」『文章理解の心理学』17章, 244-255

宇田川洋子（2013）「日本語教育・日本語学習事情の変化に応じて」『世界の日本語教育の現場から2013年度』国際交流基金 [http://www.jpf.go.jp/j/japanese/dispatch/voice/higashi\\_asia/china/2013/report08.html](http://www.jpf.go.jp/j/japanese/dispatch/voice/higashi_asia/china/2013/report08.html) < (2015年1月15日)

楠見孝（2012）『批判的思考について-これからの教育の方向性の提言-』

<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/.../2012/.../1325670\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/.../2012/.../1325670_03.pdf)> PPT2（2014年9月18日）

国際交流基金(2014)「日本語教育国・地域別情報:シラバスガイドラインー覧 香港」

<<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/syllabus/hongkong.html>>（2015年1月15日）

香港教育局「科学教・育課程文件」（2008）

<<http://www.edb.gov.hk/tc/curriculum-development/kla/pshe/nss-curriculum/learning-teaching-of-critical-thinking-skills-senior-secondary.html>>（2014年12月28日）